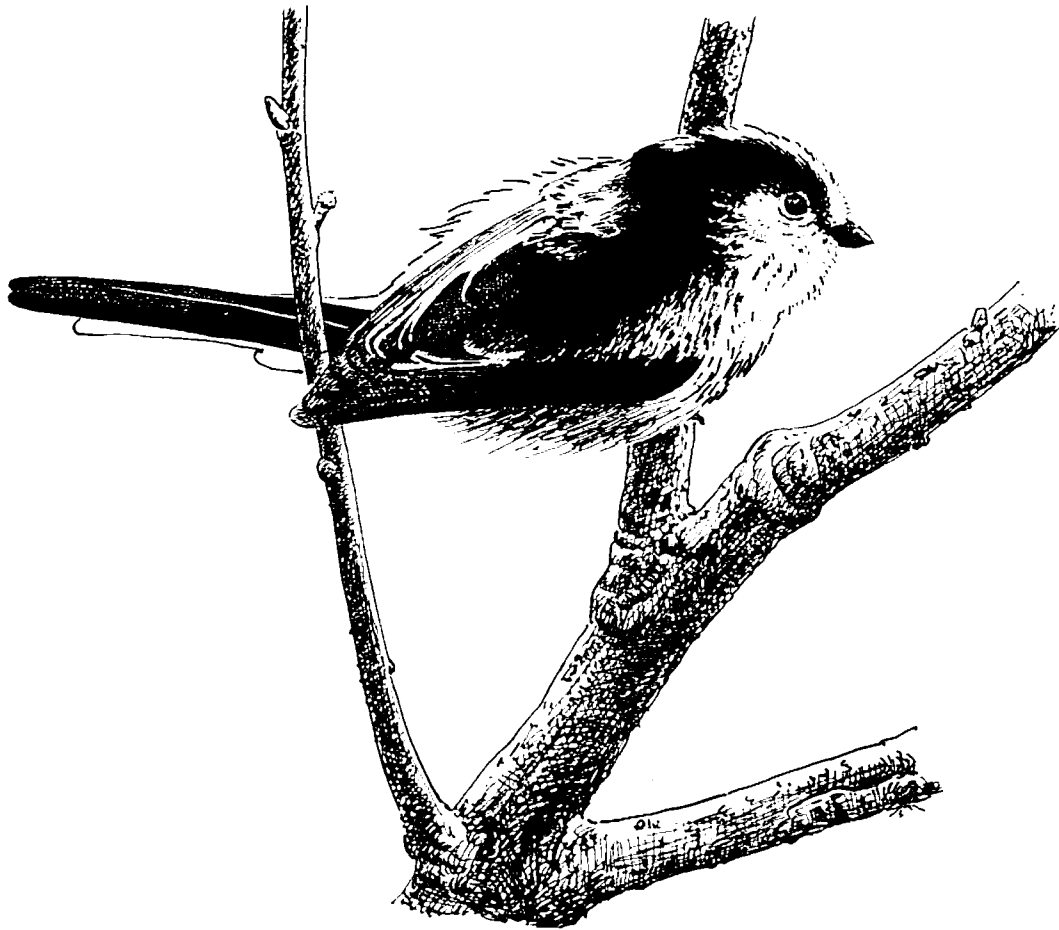


しろちどり

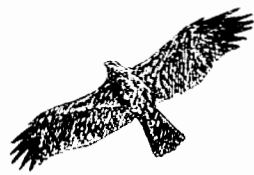
第54号

特集：三重県支部の鳥類調査



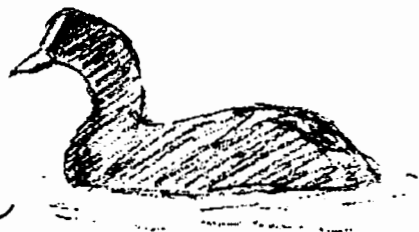
2007年 4月 日本野鳥の会 三重県支部

http://www.geocities.jp/sirochidori_mie/



特集：三重県支部の鳥類調査によせて
編集部

今回は日本野鳥の会三重県支部で行っている鳥類調査を特集しました。多くの支部会員が単に鳥を楽しむだけでなく、県内で各種の鳥類の調査に参加しています。鳥類調査では同じ場所で観察を繰り返すので、暑さ寒さで厳しい時もあり、また鳥の数が少なく退屈な時もありますが、思いがけない鳥との出会いもあります。あなたも支部の鳥類調査に参加してみませんか？また身近な場所で鳥類調査を始めるのも楽しみのひとつです。研究部員や保護部員が調査方法、場所の選定など相談に乗るでしょう。お気軽に声をかけて下さい。



オオバン

三重県支部の鳥類調査

保護部長 近藤義孝

三重県支部では、保護部と研究部を中心に何カ所かで鳥類の調査を行っています。会員の皆さまには余り知られていないこともあり、この特集で紹介します。

鳥類の保護のためには、基礎的な生息調査が必要です。三重県にも多くの貴重な鳥類が生息していますが、その保護については、十分にとは言えません。貴重な鳥類については、本会の会員も協力してできた「三重県レッドデータブック2005動物」などに記載されています。希少種だけでなく、一般的な鳥も含めて、三重県内における基礎的な生息調査は十分ではありません。ここでは、保護部が関与して行われている調査と三重県支部や会員による調査の概要について報告します。

A: 保護部が関与して行われている調査
現在、保護部が関係している調査を分けると次の3つになります。

目次

表紙の言葉

表紙の言葉	-----2
特集にあたって	-----2
特集：三重県支部の鳥類調査	
三重県支部の鳥類調査	-----2
木曾岬干拓地鳥類調査報告(2006年)	-----5
減り続けるサシバの渡り	-----7
海蔵川調査結果	-----10
員弁川調査結果	-----11
香良洲雲出川河口調査結果	-----12
アートギャラリー	-----14
支部活動のページ	-----17
野鳥記録	-----18
探鳥会報告	-----19
編集部からのお知らせ	-----22
編集後記	-----22

エナガ

田中豊成

山林へ鳥見に行けば、必ずと言っていいほど出会える小さくて可愛い小鳥です。集団で行動する傾向があるのは、群でいると監視の目が多くてタカなどをいち早く見つけ易く、危険から逃れられる利点があるのでしょう。それに襲われる確率は単体でいる場合よりも低くなります。

40数年前の中学生頃に、近くの山林で地上1.5m位の高さにあったエナガの巣を見つけたことを今でも鮮明に覚えています。3年前にもエナガの巣作りを観察しましたが、その後残念な事に何者かに巣を壊され、営巣に失敗しました。期待していた巣立ちの雛の姿を見ることは叶いませんでした。

特集：三重県支部の鳥類調査



1. 地方公共団体（三重県や市町村）からの委託調査、および、その後の任意調査

(1) 中勢地方オオタカ生態調査

中勢地方で三重県が行う公共工事にともない、オオタカの繁殖する環境が破壊されるおそれが生じました。そのため、オオタカ繁殖保護を目的とした調査が必要であることを三重県に伝えました。三重県は調査を決定し、現在は支部が調査を担当しています。従って三重県からの委託調査です。調査結果の帰属は三重県にあります。調査内容の詳細は繁殖環境保護のため公開していませんが、近年の繁殖状況は以下の通りです。

2004年 台風で巣が落ち、幼鳥2羽を保護、のち、放鳥、

2005年 巣近くでのヒナの声を確認、しかし、巣立った幼鳥を確認することはできず。

2006年 2羽の幼鳥の巣立ちを確認。

(2) 北勢地方クマタカ生態調査

北勢地方の自治体（市町村）によって開発中の山間地で、2002年にクマタカの幼鳥が水浴びをしているのを確認した人が、三重県支部に連絡しました。自治体に調査が必要であると伝えたと、三重県支部に調査して欲しいと自治体から依頼がありました。昨年度まで当該自治体が調査費用を負担する委託調査でした。昨年度（2006年度）は支部からも調査経費を支出せず、調査員の自己負担で調査を行いました。今年度から支部で調査費を支出するかどうか検討をする予定です。

調査内容の詳細については繁殖環境保護のため、公表はしていませんが、近年の繁殖状況は以下の通りです。

2002年 該当地域で幼鳥を確認

2003年 幼鳥を含む3羽が該当地域で棲息した。しかし、繁殖は確認できず。

2004年 同上

2005年 親鳥2羽のみ確認、繁殖に失敗した可能性あり。

2006年 幼鳥1羽が巣立つ。

2007年 幼鳥を含む3羽が棲息している。

2. 開発事業に対して、希少種を守るための調査（委託調査ではありません）

(1) 木曾岬干拓地立ち入り調査（調査費は調査員の自己負担です）

保護部で調査（愛知県支部・名古屋鳥類調査会も参加）

木曾岬干拓地に日本でも少ないチュウヒの繁殖地です。三重県の開発計画に対して、チュウヒの繁殖地として残せるようにするため、調査をしています。

毎月第3土曜日に干拓地内に立ち入り調査をしています。毎年調査結果を木曾岬干拓フォーラムで発表します。主にチュウヒの繁殖や猛禽のねぐら調査をしています。

調査メンバーが中心になって、昨年6月に名古屋市で、チュウヒサミットを開催しました。日本におけるチュウヒの繁殖地、越冬地の報告と、その保護の現状、今後について話し合った。詳しくは、「しろちどり52号」p17～、「バーダー」9月号に記載されています。今年の調査概要は後に記載されています。

(2) 鳥羽行者山の風力発電建設予定地調査（調査費は調査員の自己負担です）

「しろちどり53号」p17、「しろちどり52号」p19参照

カワウ



しろちどり54号



特集：三重県支部の鳥類調査

3. 三重県下鳥類棲息調査（調査費は調査員の自己負担です）

保護部の呼びかけにより2005年より県内各地で調査を行いました。調査結果は前号の「しろちどり53号」p18～及び今号「しろちどり54号」に掲載されています。

調査場所は、四日市市海蔵川、四日市市鈴鹿川派川河口、津市横山池、津市笹子谷林道、津市香良洲町、名張市東町、名張市美旗、伊賀市法花、です。

調査目的は、今後の生息地保全に調査結果を役立てたいという面だけでなく、調査を定期的に行うことにより、調査員の鳥類への理解を高めることです。

B: 三重県支部、または支部会員が行っている調査（最近のものを紹介）

1. ガンカモ調査（研究部が担当）

三重県からの委託調査です。多くの会員が参加して、毎年1月に実施しています。

2. モニタリングサイト1000

環境省が（財）日本野鳥の会に委託しているモニタリングサイト1000の「森林」の調査であり、県内のサイトの調査は支部のメンバーによって行われています。

この調査のねらいは、「鳥の生息状況と生息環境の変化を明らかにする」「環境の変化が鳥におよぼす影響をあきらかにする」「開発規制の指針をつくる」となっています。（（財）日本野鳥の会「鳥の生息環境モニタリング調査ガイド1 森林と草原を調べる」より）

朝明溪谷から腰越峠までの東海自然歩道の調査は北勢地区で担当し、津市神戸里山は津地区で担当しました。昨年度、調査をおこないました。5年後に次の調査が予定されています。100年間続ける予定の調査です。

3. シギ・チドリ調査

以前は「シギ・チドリ類個体数変動モニタリング調査」として環境庁の委託を受け（財）世界自然保護基金日本委員会（WWF ジャパン）が

行ってきました。2004年度からは上記モニタリングサイト1000の一環として環境省からWWF ジャパンと日本湿地ネットワーク（JAWAN）に委託され、継続されています。県内の各地で支部会員が調査に参加しています。県内の調査地はコアサイトとして、雲出川河口五主海岸、安濃川河口～志登茂川河口、愛宕川～櫛田川河口、一般サイトとして鈴鹿川河口～鈴鹿派川河口、及び豊津浦～町屋浦の合計5カ所です。春、秋、冬の3季にシギ・チドリの個体数を調査し、各季の速報がWWF ジャパンから発行されています。

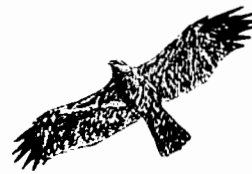
4. シロチドリ繁殖調査

支部津地区有志で継続して繁殖期に行われています。5月から6月に豊津浦、町屋浦海岸で主として巣立ちヒナの個体数を調べています。調査結果は随時支部報に掲載しています。「しろちどり53号」p18参照

5. その他 三重県からの委託調査として「鳥獣保護区設定基礎調査」（研究部が担当）があり、毎年調査地を変えて調査しています。詳細は後日掲載する予定です。（この項 編集部）

6. 標識調査

研究部長 前澤昭彦
鳥類捕獲許可書を所持する少数の会員が、個人のレベルで、山階鳥類研究所と連携をとりながら調査をしています。鳥類を捕獲し、標識（環境庁の脚環）を装着して放鳥します。その鳥が再捕獲されることで、その鳥の渡りの特徴や、年齢、換羽の様子などのデータを収集します。山階鳥類研究所ではそのデータを年報にまとめたり、蓄積したデータを「鳥類アトラス」にまとめ、発行しています。最近では野生鳥類を捕獲することは、鳥インフルエンザとの関係で非常に微妙な問題となってきています。



木曾岬干拓地鳥類生息調査報告

(2006年)

保護部 近藤義孝

現在の木曾岬干拓地

2007年2月17日現在、下図のように高速道路北側は埋め立てが進められている。また、南側でも三重県のチュウヒの繁殖に対する保全対策としてアシ原を造成するための工事が進められている。このアシ原の造成は猛禽類に対するミチゲーション（代償措置）として日本だけでなく、世界的にも数少ない事例になると考えられます。

調査の期日

今回の調査は2002年から継続して調べている調査の2006年1月から2007年2月までの調査をまとめた。

調査地点

主に図1のC地点、D地点、B地点と中央の道路上より観察をした。

調査の方法

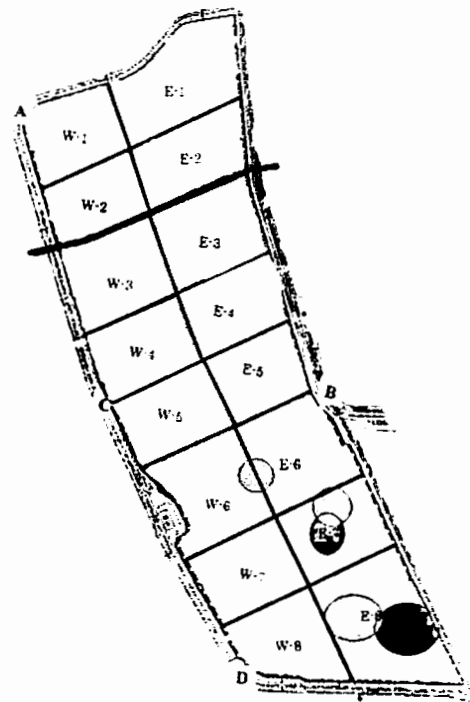
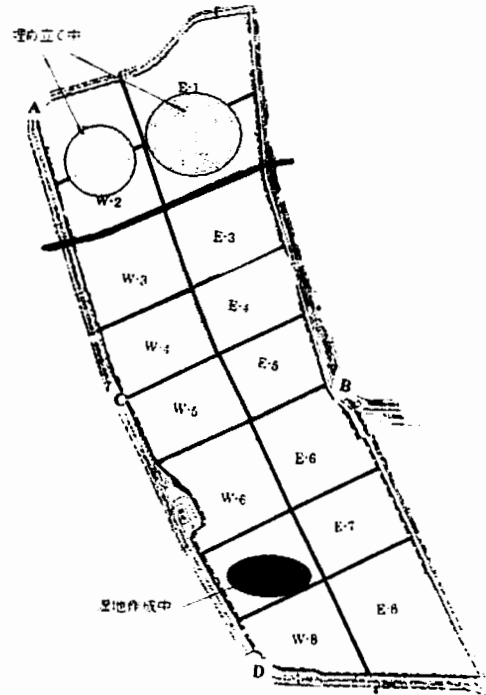
1 定期調査

2002年1月から2007年2月まで月1回、堤防上の定点あるいは干拓地中央の工事用道路上から観察した。8:00から11:30まで観察した。観察する鳥類はチュウヒおよび猛禽類、その他の特筆すべき鳥類について記録した。また、チュウヒについてはその行動、飛行経路、個体の特徴などについても記録した。

2 ねぐら調査

木曾岬干拓地でねぐらをとる猛禽を調べる目的で冬季に調査を行った。2006フォーラムでの中間報告以後、2006年12月16日にねぐら調査を行った。

調査方法は、定期調査と同じく堤防上の定点から観察を行った。観察時間は15時40分から日没で鳥が識別できなくなるまでであった。観察する鳥類は猛禽類と特筆すべき鳥類について記録した。



- ア 3月18日ディスプレイを観察
- イ 4月15日♂が来て♀が飛び出す
- ウ 4月29日つがいの♂と♀を観察
- エ 6月17日餌渡しを観察
- オ 7月幼鳥を観察



特集：三重県支部の鳥類調査

調査結果

1 チュウヒの繁殖状況

木曾岬干拓地内で観察された繁殖に係わると思われる行動や、幼鳥の確認された場所は次の図の通りである。今回の調査では2つがい3月に繁殖行動をはじめ、7月15日に巣立った1羽の幼鳥を観察された。我々が観察を始めた2002年から2006年までの観察において当干拓地で繁殖行動をはじめるとは毎年2～3つがいであり、4つがい以上が繁殖行動を始めることはなかった。また繁殖に成功してヒナが巣立つのは0巣から3巣、すなわち全部繁殖失敗から、全巣成功であった。

2 猛禽類のねぐら調査結果

下の表のように、12月16日の日没前後に調べたねぐらの調査ではチュウヒ20羽、コチョウゲンボウ6羽などが観察された。

なお、月別の観察された猛禽類の個体数は以下の通りである。

まとめ

今回も2つがい繁殖をはじめたと考えられるが、干拓地北側で観察できないのは工事の影響があるか今後調べる必要がある。

コチョウゲンボウは2002年12月に主に北側で44羽観察されたこともあった。現在埋め立て

工事が行われているところが主な観察され場所であった。チュウヒは2003年2月に35羽観察されたのが最大であった。

工事の影響やアシ原の造成が今後どのような影響を与えていくか、注意深く見極めていく必要がある。また、絶滅危惧種を守る立場から木曾岬干拓地をチュウヒ繁殖の保全と野鳥の観察場所として利用していくように取り組んでいきたい。



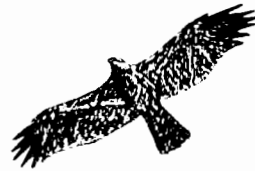
オオタカ成鳥

表 木曾岬干拓地猛禽類 個体数調査(2006-2007)

	2006													2007	
	1/29	2/16	3/18	4/15	5/20	6/17	7/15	8/19	9/16	10/21	11/18	12/16	12/16	1/20	2/17
													夕		
チュウヒ	8	8	5	4	3	5	1	2	1	1	5	7	20	6	8
ハイロチュウヒ	1		1	1								1			1
コチョウゲンボウ			2	4								2	2	6	1
チョウゲンボウ	2														
オオタカ	2	1	2	2					2	1	2	3	2		
ハイタカ		1	1							1					
コミミツク		1													
ノスリ	8	7	7	3						1	2	3	4	1	6
ミサゴ	8	10	5	3	1	3	2	4	8	6	9	8	9	6	8
ハヤブサ	1				1				1	1	1	1	1	1	1
トビ	1	1							1			1		1	

2006年12月16日(夕)はねぐら調査

しろちどり54号



咸り続けるサシバの渡り

吉居 清 (伊勢市)

はじめに

我が家はタカの渡りで有名な伊良湖岬の西南西、約31kmの場所にあり、伊良湖岬を出たタカの20-30%が我が家の周辺を通過します(吉居 1992)。ベランダでタカの渡りを発見した1982年9月29日以来タカの渡りに取りつかれ、我が家の周辺で秋のタカ渡りの調査をはじめ、24年が経ちました。

はじめは白い雲の中から突然現れるタカに驚いたり数十羽のタカ柱に感動しながら、しばらくすると、いろいろな疑問を解こうとして、そして最近は多くの限界を感じながら、我が家の年中行事として、何とか調査を続けています。

日の出ころから本格的に調査を始めたのは1986年で、1980年代には1シーズンに5000羽を超えていたタカの渡りの数が最近では1500羽強と、1/4にまで減少しました。当地に飛来するタカの経路地である伊良湖岬でも、タカ全体の渡りの数が1980年代には1シーズンで15,000羽を超えていたものが、最近では10,000羽を割り込むようになったと言われていました。また、日本から東南アジアへ渡るサシバの大半が通過すると考えられる沖縄県の宮古島では、すでに1985年から渡りの数が減少傾向を示していることが報告されています(東 淳樹 2004)。

そこで、1986年から20年間の調査結果をもとに、伊勢を秋に渡るサシバの数の変化を分析してみました。

2. 調査場所と調査方法

調査場所は図1の国土地理院の地図(1/5万伊勢)に①~⑦の番号で示した7箇所、

- ①：自宅、おもに日の出から6:20ころまで。1997-1999年は終日
- ②：やすらぎ公園、調査の中心地
- ③：赤土山、1989-1993年の5年間、南寄りを飛ぶタカを調査
- ④：柿畑、1994-1996年の3年間、さらに南寄りを飛ぶタカを調査
- ⑤：伊勢西インター、②と⑥の中間点として、2005-2006年に一時的に調査
- ⑥：浦田町駐車場、2001年から内宮の近くを飛ぶタカを調査
- ⑦：五十鈴川下流、2002-2003年、外宮と内宮方向に分かれる状況を調査

調査期間は9月25日前後から10月15日前後まで、毎日の調査時間帯は日の出の約5分前から正午ころまでですが、タカの飛来状況により延長または短縮しています。タカの確認は目視および約8倍の双眼鏡で行い、20倍の望遠鏡は補助的に使用しました。なお、タカが確認でき

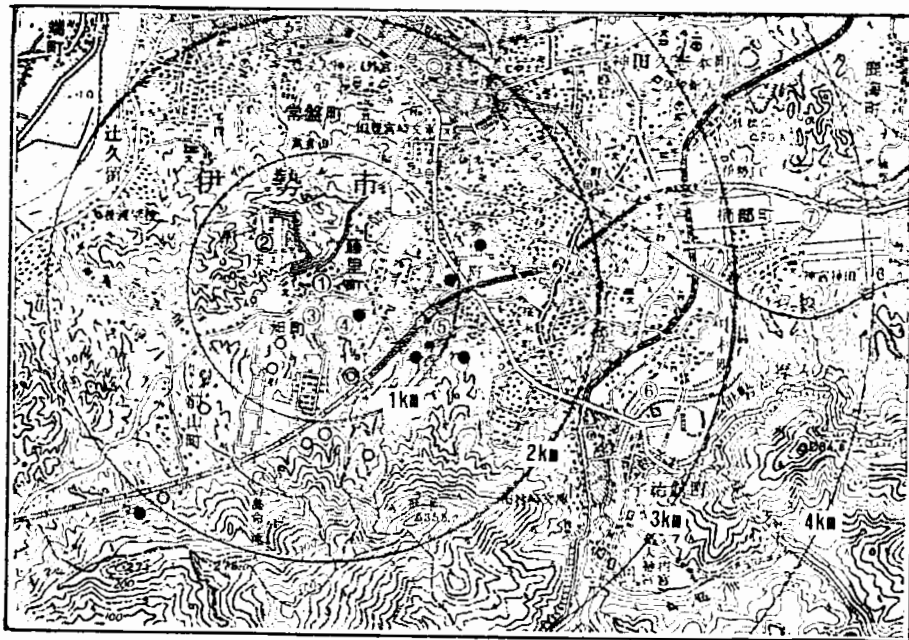


図1 タカ渡りの調査地点(丸数字)とサシバの営巣地点(丸印)
 ●：1970年代、○：1980年代、◎：1992年
 同心円は自宅からの距離



特集：三重県支部の鳥類調査

る距離は、双眼鏡を使っても1.5kmくらいでしょう。

3. 調査結果と考察

3.1 渡りの数の長期的な変化

図1の7箇所のうち、自宅からほぼ500mの範囲に入る①～④の場所で得られたデータからサシバの数だけを抽出し、20年間の変化を折れ線グラフで示すと図2のようになりました。毎年の変動幅が非常に大きいですが、このような傾向は連続調査が行われている宮古島や伊良湖岬などでも普通に見られる傾向です。その原因はその年の繁殖成功率や越冬地での生存率が変動するためではないかと考えられていますが、はっきりしていません。また、伊勢では風向きによって伊良湖岬から飛来する比率が変わるので、年毎の変動がさらに大きくなるように思われます。そのうえ、毎年調査条件の違いなども影響しているかもしれません。このように毎年、大きな変動を繰り返しながらも、全体としては年とともに減少する傾向を示しています。この減少傾向を定量的に把握するため、1986年を0年として回帰直線を求め、図2の中に直線で示しました。この直線は、次のような一次方程式になります。

$$Y = -168.9X + 4774 \cdots (1)$$

ここに Y：サシバの渡りの数、

X：1986年を0年とした年数

もし、今後も同様の傾向が続くとすれば、(1)式で $Y=0$ とおくと、 $X=28$ 、すなわち1986年から28年後の2014年には伊勢でサシバの渡りが見られなくなる可能性があることを示しています。

3.2 渡りの減少原因

基本的には、次の三つが考えられます。

(1) 日本での繁殖数の減少

伊勢を通過するサシバがどこで繁殖し、どのようなルートを経由して飛来するかは把握されていませんが、日本地図を見ると東海地方東部、関東地方、東北地方のそれぞれ太平洋側で繁殖または越冬したものが飛来すると考えられます。

また、サシバが繁殖するために必要な条件は

a. 里山の谷筋に、冬でも水がかれず、耕作されている湿田があること。

b. その湿田で、サシバの餌になるアカガエルなどが繁殖していること。

c. その湿田の近くに、適当な営巣木（おもにアカマツ）があること。

我が家の周辺には、図1に示したように、かつて10箇所を超えるサシバの巣がありました。それらは1992年を最後に消滅しました。その経過と消滅原因については本誌で報告しましたが（吉居 1998年）、住宅団地の開発で営巣地が破壊されたこと、残った湿田も稲作が放棄され、背の高い草が生えて餌が採れなくなったり、乾田化してアカガエルが繁殖できなくなっ

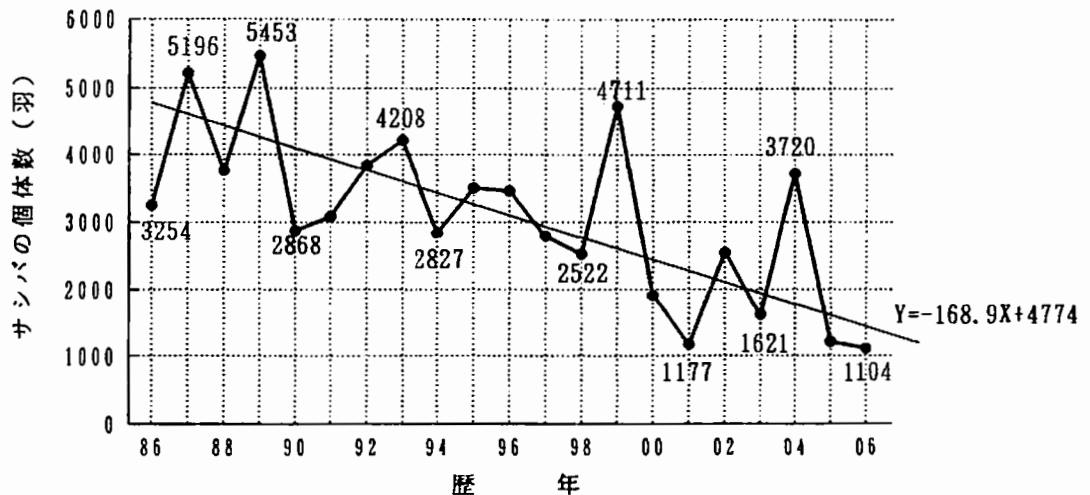


図2 伊勢やすらぎ公園周辺のサシバの渡りの長期的変化
(注) 直線は、1986年を0年とした回帰直線



たことがあげられます。また、大規模な松枯れによって、営巣に適した松の木が無くなっています。

太平洋ベルト地帯では、この40-50年間に繁殖の適地が大量に失われたと考えられ、野鳥の会の調査でも、東北地方ではサシバの生息分布が拡大しているものの、他の太平洋側の地域では、生息も繁殖も減少しています（植田・平野2005）。

(2) 東南アジアの越冬地での減少

最近、南西諸島などの国内でもサシバの越冬が確認されていますが、主な越冬地は台湾からフィリピンなどの東南アジアと考えられています。一般的な夏鳥の減少に関連して、東南アジアでの熱帯雨林の減少などが原因ではないかといわれているものの、サシバについてはまったく分かっていません。

(3) 春・秋の渡りのルート上での減少

サシバは1週間ほど餌を採らなくても十分生きて行けると言われているので、渡り途中での餌の問題が減少につながるとは考えられません。

昔、南西諸島では秋にサシバが貴重な蛋白源として捕獲されていましたが、最近は無くなったといわれています。ところが昨年10月、AFP通信や現地の新聞情報として、「台湾の国立公園内で5000羽のサシバが密猟された」とのニュースがタカ渡りネットワークに流されました。たまたま昨年の12月上旬、台湾へ探鳥旅行に出かけたとき、以前、台湾野鳥学会で働いていたという現地ガイドに質問したところ「5000羽は誇張された数字だと思うが、残念ながら500羽程度が密猟されている可能性はある」との答えでした。

4. おわりに

過去20年間の調査結果から、秋に伊勢を渡るサシバの数が減少し続けていることが分かりました。上記の密猟は大きな問題ですが、仮にこれがかかなり以前から行われていたとしても、1980年代の中ごろから減少が始まった原因には直接結び付きません。当地での減少は、やはり日本でのサシバの生息・繁殖の適地が減少したことが最大の原因ではないかと思っています。

しかし、これに対する有効な対策は思い当らず、サシバの繁殖地がこれ以上、失われないことを願うしかありません。

5. 参考文献

東 淳樹 2004、サシバとその生息地の保全に関する地域生態学研究

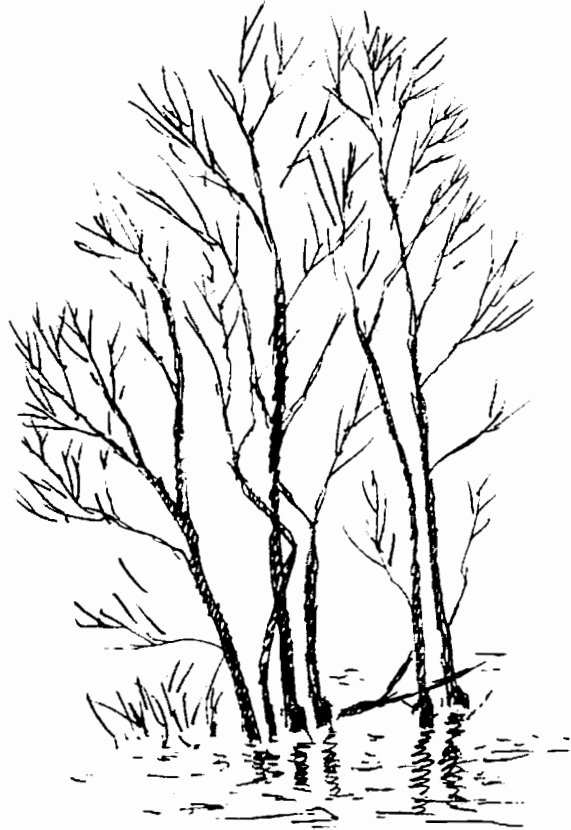
我孫子市鳥の博物館調査研究報告、12:1-119

植田 睦之・平野 敏明 2005、鳥類繁殖分布調査でわかってきた日本の鳥の現状

野鳥 692(11):4-11

吉居 瑞穂・吉居 清 1992、伊勢のタカ渡り、Strix 11:233-243

吉居 瑞穂 1998、夏鳥はいま・・・サシバ、しろちどり 21:6-7



水辺



特集：三重県支部の鳥類調査

海蔵川調査結果

調査地の概要

四日市市西坂部町を流れる海蔵川は、里山の風情を保ち自然の状態がすこぶる良好である。しかし、近年の度重なる河川改修工事による自然回復の遅れや、北勢バイパスの通過計画による

自然破壊が懸念される。蛇行した川の堤防のところどころに、メダケの群落があり、道からの視界をさえぎるので、野鳥の格好の隠れ場所となっており、カイツブリやバンが営巣することもある。川の両側にある田畑は、開けた環境を好むツグミやセキレイ類などの餌場となってい

海蔵川調査結果

調査日	2005年			2006年			
	8月30日	10月25日	11月8日	2月7日	5月30日	9月19日	12月5日
天気	くもり	晴れ	快晴	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ
開始	9:55	12:20	10:00	10:02	9:30	9:45	9:40
終了	10:52	13:33	11:45	11:53	11:15	12:00	11:50
カイツブリ	2	1	5	2	3	3	6
カワウ		2	1	4	3	3	7
ゴイサギ			1		2		9
アマサギ	4				1	14	
ダイサギ	1					1	
チュウサギ	2				5	1	
コサギ	2			3	1		
アオサギ	1	1	2		2	1	1
カルガモ	36	5	25	42	7	40	41
コガモ					1		
オオタカ			1				
ハヤブサ			1				
キジ					3	1	
バン		1	3		1		2
イソシギ	1		1	2		2	1
キジバト	7	3	3	9	7	14	3
コゲラ	1	2		1		1	
カワセミ	3	2	1		3		
ヒバリ				1	1		
ツバメ	4			10	9	6	
キセキレイ			1	2			1
ハクセキレイ		4	9	2		2	10
セグロセキレイ	2	2	1	5	5	4	7
ビンスイ						2	
ヒヨドリ	4	8		5	4		31
モズ		3	3	2		1	2
ジョウビタキ				1			
ツグミ				11			10
ウグイス			1	1			1
オオヨシキリ					1		
セッカ					2		
シジュウカラ				5			1
メジロ				3		2	12
ホオジロ	6	8	2	8	4	12	5
カシラダカ				4			
アオジ				7			6
カワラヒワ		1	1	9	6	12	33
スズメ	168	21	9	16	28	33	21
ムクドリ	25	15		32	3	30	2
ハシボソガラス	1	5	29	9	3	98	4
ハシブトガラス						2	34
ドバト		17		1		1	1
時間外				イカルチドリ 1		ササゴイ 1	

特集：三重県支部の鳥類調査



る。また、丘陵にはさまれているので、そこを
時とする猛禽類や山野の鳥類も水浴び場、餌場
として利用するところである。

2) 調査の概要

2005年8月末から調査のコースとルールを改
め、年4回の探鳥会の下見と兼ねて行っている。
コースは海蔵川の堤防沿いに、代官橋を始点と
し、高田橋を渡って御館橋を終点とする約2km

に設定した。始点と終点それぞれで30分間定点
観察をし、ラインセンサスは川の対岸までと手
前側の田畑25mを範囲とした。

集計後、定点とラインセンサスで重複すると考
えられる種類については、その数の多いほうを
採用した。

3) 調査者

高 和義、安藤 宣朗、榊原 茶美、
尾畑 玲子

員弁川調査結果

観察地点は、いなべ市員弁町御園632
いなべ総合学園高校横の員弁川です。

調査員：近藤義孝

	2005年		2006年		
	10月1日	11月28日	2月3日	4月9日	7月22日
調査開始	9:35	9:18	9:14	11:00	8:25
調査終了	10:41	10:10	9:45	11:45	9:10
カイツブリ	4	1	5		
カワウ	1		1	4	4
アマサギ					3
ダイサギ	2			5	
アオサギ	2	3			
カルガモ		2		4	3
トビ	1				
ハイタカ		1			
キジ		1			
ケリ				1	4
クサシギ		2	1	3	
イソシギ	1	4			
キジバト	1	2	8		
カワラバト			16	40	20
ヒバリ	1		1	2	
ショウドウツバメ	13				
ツバメ	11				8
キセキレイ	2	3			
ハクセキレイ		2	3	3	
セグロセキレイ	12	8	4	4	5
タヒバリ		1			
ヒヨドリ	4	2	1	1	1
モズ	1				2
ノビタキ	1				
ツグミ			1	6	
ウグイス		2			
セッカ		1			3
ホオジロ	3	1	13	3	2
スズメ	40		20	8	
ムクドリ			9		
ハシボソガラス	5	6	4	8	1
ハシブトガラス	1				
出現種数	19	17	14	14	12



ホトケノザ



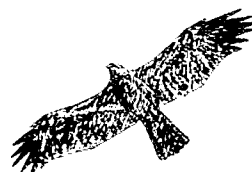
特集：三重県支部の鳥類調査

香良洲雲出川河口調査

雲出川河口左岸、津市香良洲町の東南先端の水門からカーブ付近の定点から河口内部、海上、および内陸部を午前中に1時間観察し、個体数を記録した。 調査員：久住勝司

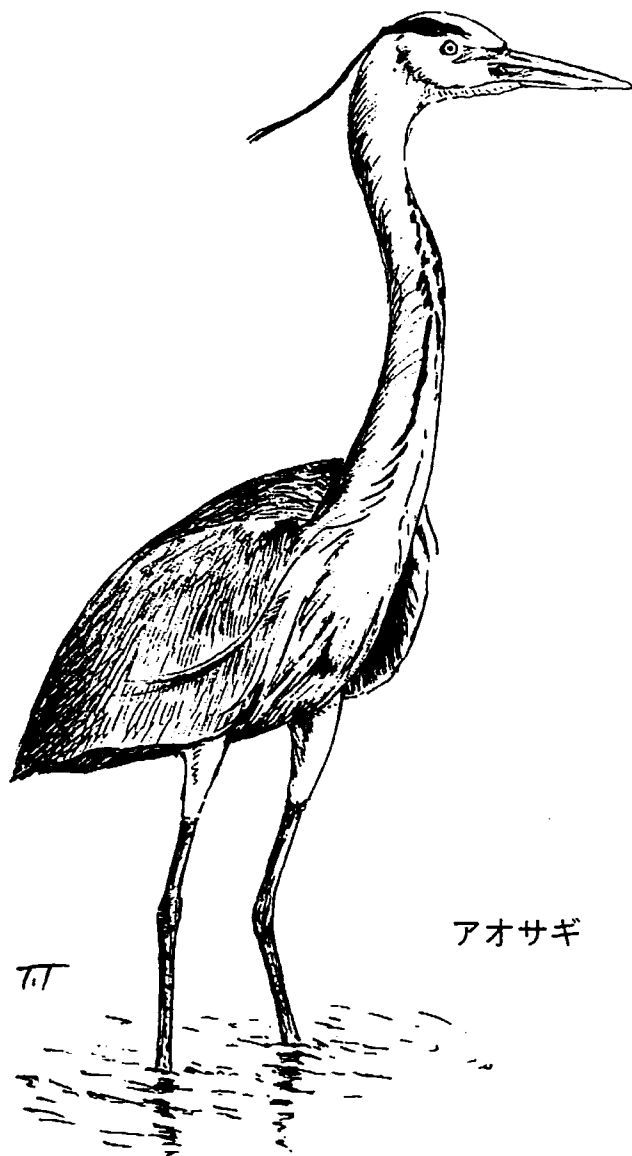
香良洲海岸雲出川河口

	2005年		2006年						
	11月14日	12月13日	1月26日	2月9日	3月24日	4月10日	5月8日	6月20日	7月25日
観察開始	9:00	9:00	9:00	9:30	9:40	9:00	9:20	9:30	10:00
観察終了	10:00	10:00	10:00	10:30	10:40	10:00	10:20	10:30	11:00
カイツブリ									
カワウ	123	662	85	91	21	10	74	91	65
ダイサギ	1				1	1	2	1	1
コサギ					7	2	1	2	8
アオサギ	3	2		2	1	3	4	8	5
コクガン	3			4					
ツクシガモ			5						
マガモ	702	280	121	62	226	55			
ヒドリガモ	24		20	34	7	15			
オナガガモ	287	82	44	3					
ウミアイサ					5	12			
トビ								1	2
ミヤコドリ	23								
シロチドリ		8	68	15	9				
メダイチドリ									
ダイゼン	1								
キョウジョシギ									
ハマシギ	76	34	293	134	77	100			1
キアシシギ							16		19
イソシギ			1			1			
ソリハシシギ									
オオソリハシシギ	2						1		
チュウシャクシギ							5		
ユリカモメ	163	13	165	1180	920	120	1		
セグロカモメ	42	12	23	13	31	20		3	
ウミネコ	53								93
キジバト	4						2	1	
カワセミ								1	
ヒバリ	2						4	1	3
ツバメ						5	3	2	4
ハクセキレイ	2	2	1	2	2	1	1	3	
ヒヨドリ	5			2		1		2	
モズ	1							1	
ジョウビタキ	1								
イソヒヨドリ		1	1						
ツグミ					1	2			
オオヨシキリ								1	
ホオジロ							3	1	1
カワラヒワ	7						1	2	4
スズメ	5			8	13		5	3	7
コムクドリ							8		
ムクドリ	5							2	15
ハシボソガラス	3	3	1	5		1	2	2	4

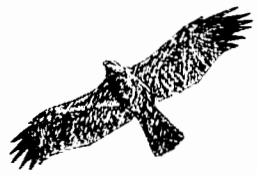


香良洲海岸雲出川河口(続き)

	2006年		
	8月20日	9月7日	10月16日
観察開始	7:50	10:30	9:00
観察終了	8:50	11:30	10:00
カイツブリ			1
カワウ	103	236	350
ダイサギ	4	1	
コサギ	4	4	2
アオサギ	2	6	5
コクガン			
ツクシガモ			
マガモ			
ヒドリガモ			18
オナガガモ			
ウミアイサ			
トビ		2	
ミヤコドリ			28
シロチドリ	11		3
メダイチドリ		6	1
ダイゼン			
キョウジョシギ	2		
ハマシギ			
キアシシギ	19	2	3
イソシギ			2
ソリハシシギ	1	1	1
オオソリハシシギ			1
チュウシャクシギ			
ユリカモメ			100
セグロカモメ			15
ウミネコ	150	200	200
キジバト	2		1
カワセミ			
ヒバリ			
ツバメ	3	4	
ハクセキレイ	1		2
ヒヨドリ			115
モズ			1
ジョウビタキ			
イソヒヨドリ			1
ツグミ			
オオヨシキリ			
ホオジロ	1		
カワラヒワ			
スズメ	3		3
コムクドリ			
ムクドリ	12		
ハシボソガラス	3	2	3



アオサギ



アートギャラリー

今回は 今井光昌さんの迫力ある写真を掲載します。

上：ミヤコドリ 下：ミサゴ

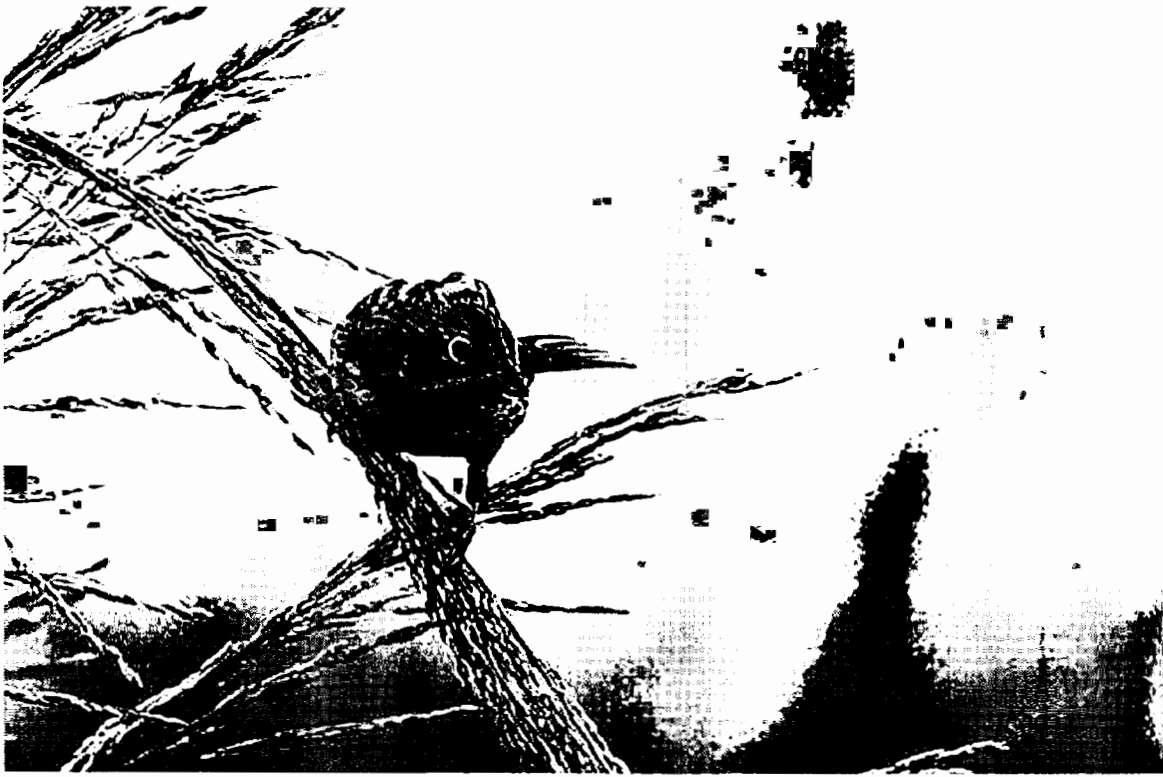


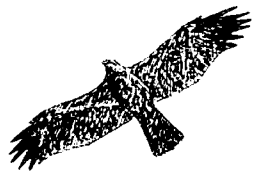
アートギャラリー



上：ホオアカ

下：コアオアシシギ





アートギャラリー



上：アオゲラ 下：トラツグミ

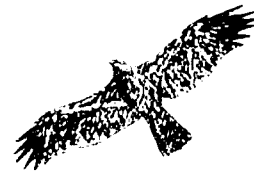
ファインダーをのぞきながら野鳥の動きを待つ、その間の緊張感がたまらなく好きです。動きの中で一瞬見せる表情やしぐさを綺麗におもしろく撮りたい。

みんなが感動する写真を撮れたら.....

いつもそんな夢を未熟な腕で追いかけてます。

今井光昌

支部活動のページ



支部活動の記録 (2006年12月～2007年2月)

2006年

12/26 「平成18年度県営事業(地震対策)環境調査その2委託」入札

12 「平成18年度カワウねぐらコロニー調査事業」の実施

2007年

1/13～14「平成18年度ガン・カモ科鳥類一斉調査委託事業」
の実施

1/18 行事案内・印刷作業

1/20 支部報「しろちどり第53号」発行・発送作業

2/7 第10次鳥獣保護事業計画書(案)に対して意見書を送付(保護部)

2/15 県の漁場環境保全創造事業について現地説明会

2/27 特定鳥獣保護管理計画(ニホンジカ)の樹立について意見書送付

特定鳥獣保護管理計画(ニホンジカ)に基づく狩猟の制限の変更について意見書送付



● これからの予定(3月～)

3/11 2006年度第3回理事会

3/23 中部近畿カワウ広域協議会

3 各委託事業のまとめ作業

4 支部報「しろちどり第54号」発行

取扱商品

フィールドスコープ
双眼鏡(小型・大型)
天体望遠鏡
カメラ(新品・中古)
その他光学製品各種

取扱メーカー

KOWA・NIKON・FUJINON
MIYAUCHI・VIXEN・PENTAX他

中部地区最大の光学製品専門店

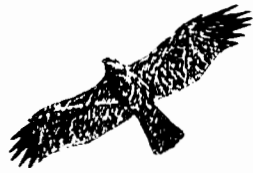
TELESCOPE CENTER EYEBELL

テレスコープセンターアイベル(株式会社アイベル)

〒514-0801 津市船頭町3412(メガネのマスダ2F) TEL 059-228-4119

定休日/毎週水曜日 営業時間/10:00～19:00

ホームページ <http://www.eyebell.com> メールアドレス eyebell@diamond.broba.cc



野鳥記録

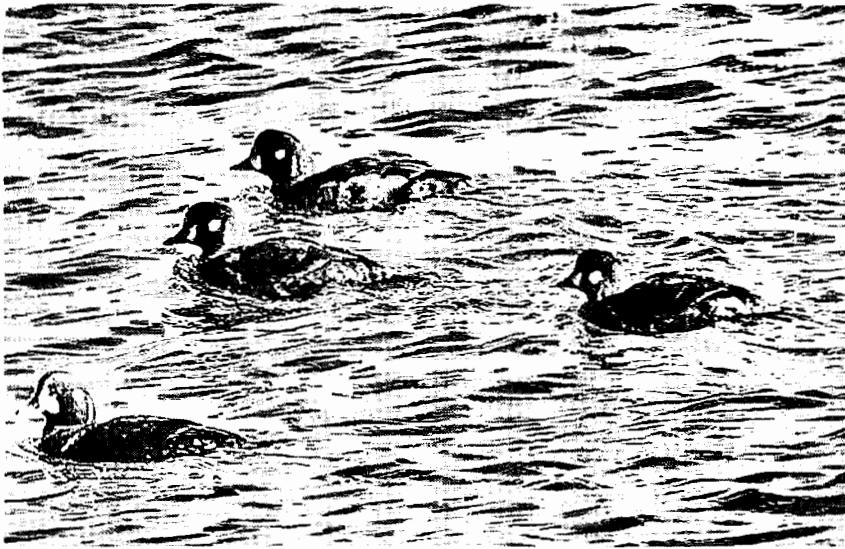
野鳥記録(2006年12月～2007年3月まで)

種名	個体数	観察日	場所	観察者	備考・メモ
ナベヅル	4	11月22日	伊勢市西富浜町	小坂里香	
ハマヒバリ	1	12月23日	三重県津市町屋浦海岸	永井孝治・ 村山真一郎	
シノリガモ	4	12月30日	鈴鹿市江島本町の海岸	田中洋子	
クロガモ	1	1月3日	津市志登茂川河口	田中洋子	
ハヤブサ	2	10月1日	松阪市ローレルコート マンション	中村洋子	
ソウシチョウ	10数羽	11月17日	松阪市伊勢寺町松阪森林 公園 観音岳標高606m	中村洋子	
オオマシコ	1	1月12日	松阪市飯南町・大台町境 相津峠	中西章	
ミヤコドリ	42	1月29日	津市安濃川河口	岡八智子	
ミコアイサ	4	2月5日	いなべ市両ヶ池	近藤義孝	
アジサシ類	1	12月15日	鈴鹿市江島台総合スポー ツ公園	川崎道夫	クロハラアジサシ、ハ ジロクロハラアジサシ などの仲間(種名不 明)
シマアオジ	1	10月23日	志摩市磯部町	森口道夫	
コハクチョウ	1	1月3日	伊勢市村松町	林淳子	
ビロードキンクロ	1	12月19日	明和町大淀海岸	小坂里香	

右：アジサシ類 種不明
川崎道夫 撮影
下：ミヤコドリ
岡八智子 撮影



しろちどり 54号



上：シノリガモ
勝谷宜生 撮影
右：ハマヒバリ
久住勝司 撮影



探鳥会報告

2006年11月～2007年1月

●市木川田んぼ及び河口探鳥会

2006年11月12日(日) 9:00～12:00

御浜町下市木

中井節二

参加者11名(会員5名 会員外6名)

カイツブリ、カワウ、ダイサギ、アオサギ、マガモ、カルガモ、コガモ、ミサゴ、トビ、ノスリ、チョウゲンボウ、キジ、バン、オオバン、イソシギ、タシギ、キジバト、カワセミ、ヒバリ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ビンズイ、タヒバリ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキひよ、ノビタキ、イソヒヨドリ、シロハラ、ウグイス、メジロ、ホオジロ、ホオアカ、カシラダカ、アオジ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシブトガラス、ドバト。41種

前日の雨が明け方近くまで降っており、風が強
く寒かったので参加人数も少なかったようです。
種類数が41種出たので楽しんでいただけたと
思います。

●行者山麓探鳥会

2006年11月19日(日)

鳥羽市堅神町(通称:光り石保全林遊歩道)

西村 泉・川村晴彦

雨天のため中止



探鳥会報告

●木曾岬干拓地探鳥会

2006年11月26日(日) 9:00～12:00

(共催団体 愛知県野鳥保護連絡協議会)

三重県木曾岬干拓地・愛知県鍋田干拓地

近藤義孝・村田芳雄 参加者16名

カイツブリ(6)、カワウ(5000)、ダイサギ(1)、コサギ(3)、アオサギ(4)、マガモ(10)、カルガモ(100)、コガモ(200)、オカヨシガモ(10)、ヒドリガモ(4)、オナガガモ(1)、ハシビロガモ(20)、ホシハジロ(6)、ミサゴ(5)、オオタカ(2)、ノスリ(1)、チュウヒ(5)、ハヤブサ(1)、コチョウゲンボウ(2)、チョウゲンボウ(1)、オオバン(4)、ケリ(5)、タゲリ(31)、クサシギ(3)、イソシギ(2)、タシギ(1)、ユリカモメ(1)、キジバト(15)、カワセミ(2)、ヒバリ(10)、キセキレイ(1)、ハクセキレイ(7)、ヒヨドリ(20)、モズ(5)、ジョウビタキ(3)、ツグミ(50)、ウグイス(1)、セッカ(3)、ヤマガラ(3)、シジュウカラ(3)、メジロ(1)、ホオジロ(7)、アオジ(3)、スズメ(150)、ムクドリ(30)、ハシボソガラス(50)、ハシブトガラス(20)、ドバト(20)。48種

冬の鍋田・木曾岬干拓地はやはりすごい。猛禽類のオンパレード。そのため、いつも見られるキジやカワラヒワを誰も見ていなかった。

●タカと里山の小鳥たちを見る探鳥会

2006年11月26日(日) 10:00～12:00

伊賀市比自岐

塗矢尋一

参加者2名(会員2名 会員外0名)

トビ(4)、ノスリ(2)、コチョウゲンボウ(2)、キジバト(14)、ヒバリ(2)、ハクセキレイ(4)、セグロセキレイ(6)、ヒヨドリ(16)、ツグミ(8)、カワラヒワ(12)、スズメ(50)、ムクドリ(6)、カケス(2)、ハシブトガラス(14)。14種

●坂内川探鳥会

2006年12月3日(日) 9:30～11:30

松阪市内五曲町

宮田たつ・水森和子

参加者14名(会員12名 会員外2名)

カイツブリ、カワウ、ダイサギ、トビ、コチドリ、イカルチドリ、イソシギ、キジバト、カワセミ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ウグイス(声)、メジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ドバト。21種

いつもいるはずのカモがいなかった。冬鳥が見られず留鳥ばかりでしたがゆっくり、じっくり観察しました。

●海蔵川探鳥会

2006年12月12日(火) 9:40～11:30

四日市市西坂部町

尾畑玲子・高和義

参加者7名(会員7名 会員外0名)

カイツブリ(4)、カワウ(13)、カルガモ(27)、バン(5)、シギsp(1)、キジバト(7)、カワセミ(2)、キセキレイ(1)、ハクセキレイ(3)、セグロセキレイ(2)、ヒヨドリ(17)、ツグミ(13)、ウグイス(1)、ホオジロ(3)、アオジ(5)、カワラヒワ(5)、スズメ(12)、ムクドリ(2)、ハシボソガラス(1)、ハシブトガラス(5)。20種

この探鳥会としては参加者が集まったので、小雨が降っていたが決行とした。猛禽類こそ見られなかったものの、常連さんは充分に活発で参加者には楽しんでもらえたと思う。

●神路ダム探鳥会

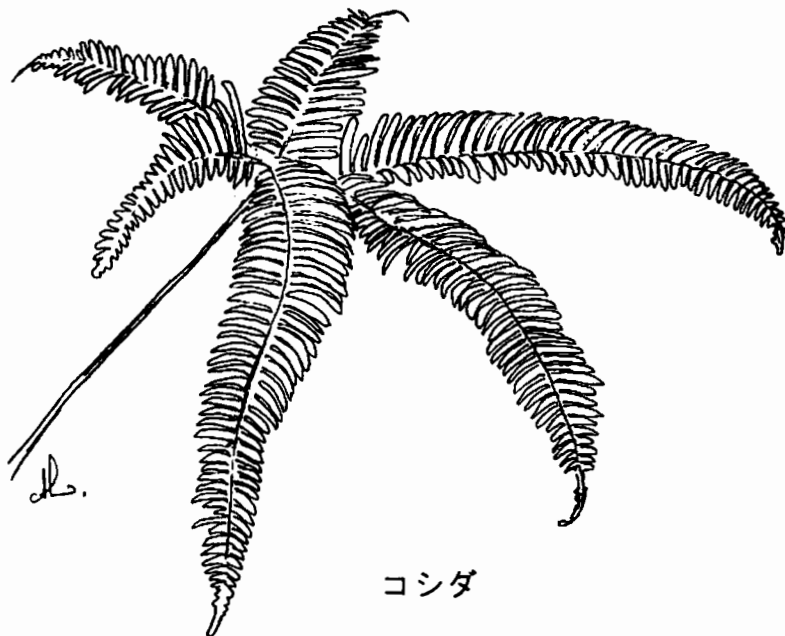
2006年12月17日(日) 9:30～12:00

志摩市磯部町恵利原

今村 禎・中村みつ子

参加者10名(会員10名 会員外0名)

カイツブリ(2)、カワウ、オシドリ(100+)、マガモ、カルガモ、キンクロハジロ(5)、トビ(2)、オオタカ(1)、コゲラ



コシダ



(3)、キセキレイ(1)、セグロセキレイ(1)、ヒヨドリ(13)、シロハラ(2)、ツグミ(2)、ウグイス(2)、エナガ(20+)、ヤマガラ(4)、シジュウカラ(1)、メジロ、ホオジロ(3)、アオジ(3)、ウン(2)、ハシブトガラス(2)。23種

久しぶりに開催された神路ダムでの探鳥会だった。周辺の環境は保たれており、オシドリの個体数は近年増加している様に思われる。オシドリは遠くて観察しづらいが、そのような環境がオシドリには住み良い環境であることが分かってもらえたのではないのでしょうか。

● 安濃ダム探鳥会

2006年12月23日(祝) 10:00-12:00

津市芸濃町

平井正志・岡八智子

参加者43名(会員25名 会員外18名)

カイツブリ、カワウ、アオサギ、オシドリ、マガモ、カルガモ、コガモ、トモエガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ミコアイサ、トビ、ハイタカ、オオバン、カワセミ、ヒヨドリ、ルリビタキ、ジョウビタキ、ヤマガラ、シジュウカラ、アオジ、オオジュリン、ハシボソガラス。25種

はるばる神戸から駆けつけた方々がおられ、大盛況であった。地元の会員から、めざすオシドリがないとの情報が直前にあり心配したが、いつもとは別の岸辺に隠れていた。何に驚いたのか、一斉に飛び出し、その多さと見事さに一同感激した。45羽であった。トモエガモが1羽、マガモの中に混じっていた。残念ながら、神戸からの参加者が期待したクマタカは出現しなかったが、ハイタカが2羽山の上を飛んだ。横山池では多くのカモに混じって、ミコアイサのメスが見られた。

● 木曾岬干拓地探鳥会

2006年12月24日(日) 9:00~12:00

(共催団体 愛知県野鳥保護連絡協議会)

三重県木曾岬干拓地・愛知県鍋田干拓地

近藤義孝・村田芳雄

参加者24名

カイツブリ(30)、カワウ(30)、ダイサギ

(3)、コサギ(2)、アオサギ(3)、マガモ(20)、カルガモ(200)、コガモ(400)、オカヨシガモ(60)、ヒドリガモ(1)、ハシビロガモ(16)、ホシハジロ(6)、キンクロハジロ(1)、ミサゴ(7)、トビ(1)、オオタカ(1)、チュウヒ(5)、チョウゲンボウ(2)、キジ(4)、オオバン(1)、タゲリ(1)、クサシギ(1)、ユリカモメ(4)、セグロカモメ(1)、キジバト(10)、カワセミ(1)、ヒバリ(5)、ハクセキレイ(40)、タヒバリ(20)、ヒヨドリ(200)、モズ(3)、ジョウビタキ(1)、ツグミ(30)、ヤマガラ(2)、シジュウカラ(1)、メジロ(5)、ホオジロ(3)、アオジ(2)、カワラヒワ(3)、スズメ(100)、ムクドリ(50)、ハシボソガラス(50)、ハシブトガラス(50)、ドバト(80)。44種

天候もよく、寒くない冬の1日であった。鍋田の田圃の中にいる鳥が少なくなっているように感じる。探鳥会の間、ずっとチュウヒが木曾岬干拓地の中を飛んでいた。

● オシドリを主にカモを見る探鳥会

2007年1月21日(日) 9:00~12:00

名張市葛原地内

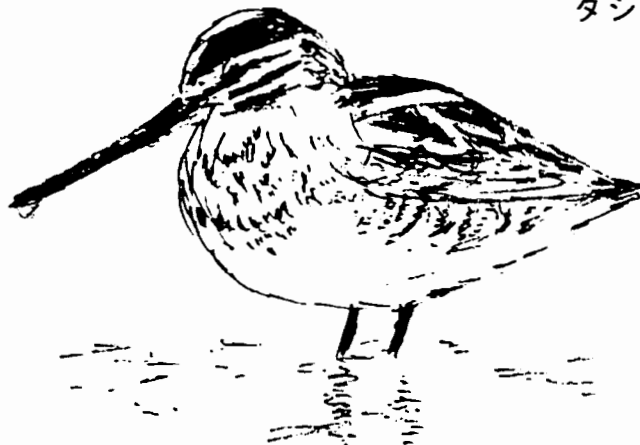
田中豊成・小林達也

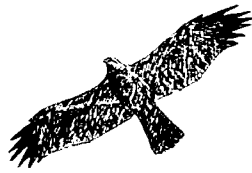
参加者8名(会員7名 会員外1名)

カイツブリ、カワウ、アオサギ、オシドリ、マガモ、コガモ、ヒドリガモ、トビ、ケリ、キジバト、ヤマセミ、カワセミ、コゲラ、イワツバメ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、ツグミ、ウグイス、エナガ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、アオジ、カワラヒワ、ベニマシコ、スズメ、カケス、ハシブトガラス。30種

野鳥個々の数は少なかったが、種類は山間部としては多く観察された。観察場所でハンターと出会い複雑な思いをした。従って、いつもオシドリが越冬する場所(2ヶ所)は2羽しか確認できなかった。最後にヤマセミ♀が飛来し、終わり良ければ全て良しとなった。

タシギ





●カモメどっぶり探鳥会

2007年1月28日(日) 10:00~12:00

明和町大淀海岸周辺

小坂里香・中西 章

参加者28名(会員22名 会員外6名)

カイツブリ(2)、カワウ(50)、ダイサギ(2)、コサギ(1)、アオサギ(6)、ヒドリガモ(4)、トビ(6)、チュウヒ(1)、シロチドリ(2)、ケリ(2)、ハマシギ(12)、ユリカモメ(10)、セグロカモメ(30)、オオセグロカモメ(2)、キジバト(3)、ヒバリ(1)、ハクセキレイ(2)、タヒバリ(10)、ヒヨドリ(5)、モズ(3)、ジョウビタキ(3)、イソヒヨドリ(1)、ツグミ(10)、ウグイス(1)、メジロ(5)、ホオジロ(2)、アオジ(3)、カワラヒワ(10)、シメ(1)、スズメ(10)、ムクドリ(10)、ハシボンガラス(10)、32種

暖冬の影響か、肝心のカモメが少なく残念だったが、タヒバリなど小鳥類も観察でき、子どもさん達の参加もあって楽しい探鳥会になったと思う。

●木曾岬干拓地探鳥会

2007年1月28日(日) 9:00~12:00

(共催団体 愛知県野鳥保護連絡協議会)
三重県木曾岬干拓地・愛知県鍋田干拓地

近藤義孝・村田芳雄 参加者23名

カイツブリ(18)、カワウ(30)、ダイサギ(2)、コサギ(1)、アオサギ(2)、マガモ(4)、カルガモ(60)、コガモ(200)、オカヨシガモ(50)、ハシビロガモ(15)、ホシハジロ(15)、キンクロハジロ(6)、スズガモ(1)、ミサゴ(4)、トビ(1)、ノスリ(6)、チュウヒ(4)、チョウゲンボウ(1)、キジ(8)、ケリ(10)、タゲリ(21)、クサシギ(1)、イソシギ(2)、キジバト(10)、カワセ

ミ(1)、ヒバリ(5)、ハクセキレイ(15)、タヒバリ(10)、ヒヨドリ(20)、モズ(5)、ジョウビタキ(2)、ツグミ(30)、ウグイス(1)、シジュウカラ(40)、メジロ(2)、ホオジロ(25)、カワラヒワ(12)、スズメ(300)、ムクドリ(500)、ハシボンガラス(300)、ハシブトガラス(30)、ドバト(70)。42種

今年は、地球温暖化の影響なのか、雪も少なく暖かな日が続いている。干拓地のチュウヒもディスプレイを始めていたようだ。

編集部よりお知らせ

編集部では支部報「しろちどり」の原稿を随時募集しています。鳥、自然、あるいは支部の活動について、文章でも写真でもイラストでも結構です。およせください。イラストや写真でまとめたものはアートギャラリーとして掲載します。原稿はなるべく電子ファイルでお願いします。なお、次号より編集部交代の予定です。

原稿送付先

511-0123 桑名市多度町北猪飼521

近藤義孝

編集後記

津の海の冬の風物詩とまでになったミヤコドリ 今期42羽の最高記録を更新し嬉しき限りです。他にもミユビシギ・コクガン・ズグロカモメ・いく種ものカモ・カモメ等盛沢山です。何時までも豊かな海・河口であって欲しいと思います。今回で津地区担当から“しろちどり”離れます。色々ご協力有難う御座いました。益々この機関紙の発展を願っています。(Y.O)

しろちどり 54号

2007年4月10日発行

題字： 濱田 稔

表紙絵： 田中豊成

カット： 田中豊成 / 平井正志

編集： 平井正志 514-2325

津市安濃町田端上野910-49

発行所： 日本野鳥の会三重県支部

平井正志方

514-2325 津市安濃町田端上野910-49

http://www.geocities.jp/sirochidori_mie/

印刷：伊藤印刷株式会社